



軍防令講義

五

295  
6



五  
29  
く

東京書局  
蔵書印

軍防令講義卷之五

令義解第

凡大将出征克捷以後

三十一  
破  
書

義解云謂克者勝也捷者獲也と云ハ克と捷と  
二事と知べし左傳莊公十一年傳子得雋曰克  
とあハ征伐し將軍以下勇敢の兵士を打  
捕しをいふあるへし壬申の亂に瀨田の橋に  
戦ふ近江の將軍智尊を斬すの同し時近江の  
將軍大上連五十君谷直鹽手を粟津市に斬し

講義 軍防令卷五

かど是かつ軍得日捷と穀梁傳ハハハ捷ハ  
獲物エモあふを云壬申の亂ハ大伴連吹負フケヒの飛鳥  
寺西槻ツキ下ス總積臣百足を射てこれを殺  
總積臣五百枝物部オホト首日向を生捕ハふとを云  
なるべハ次ハ未散之前ハといハハ戰散ハての  
後ハ未散之前ハ乃出ハとハさハこの  
諸軍未散之前

三軍ハもあハ一軍ハもあハ軍衆よハて隊  
正旅師校尉少毅大毅録事ロクシ軍曹グンソウ軍監グンケンにかその

所當ハ居ルをいハ

即須對衆詳定勲功並録軍行以來有所克捷及諸  
費用

對の字ハ大將軍將軍副將軍の軍衆ハ對ハをい  
をいハ考課令ハ應考者皆具録一年功過行能  
並集對讀と云對字ハ同ハ其月其日其處ハ戰  
ハハ時某團某隊の騎兵某ハ步兵某姓名  
其を斬キリ時軍監グンケン此れを見ハ由ハその時申マシ  
置ハといハかハ其時軍器若干ハ分捕ブンポ

たる戎隊正某姓名見知せしふと注しあるひ  
ハ其戦の時兵粮塩若干を費ししハ薪秣豆  
以下若干を買ひるよしを記録しるを云なり  
義解ニ謂軍資之用度也といふ是なり

軍人兵馬甲仗見在損失

出征の日軍人若干今克捷以後軍人若干戦死  
人若干と記しし軍人の見在損失あり出征  
の日兵馬若干足今若干足と記しし兵馬の  
見在損失あり甲曹等稍具装をべし如是出征

の日乃數と歸陣の日乃見在戎記録をふを云  
なり

大将以下連署

義解ニ謂將軍府具録行軍以來行状以為書記  
仍大将以下連署といふハ大將軍府の録事の  
日記ときこゆ日の日記ハ此軍行第一の記録  
ふしハ卷末ニ年月日を記し大將軍官位姓名  
將軍官位姓名副將軍官位姓名軍監姓名軍曹  
姓名録事姓名と連署をるとなり即申勲之日

更依此書記以為勲狀是下條所謂勲簿者也  
いへの歸陣して兵士以上軍行路次の景迹戦  
場隊伍の前後および怯弱敢勇首級を得し始  
末分捕の次第を以てこの書記を以て案記と  
まゝ兵士以上乃勲功状を作るとなり此勲功  
状をかち後世に所謂軍忠申状とて令の時  
も兵士各々より申立るに大将軍府乃書記に  
引合せ勲の次第を定め申上るに賞を行はる  
かるべし

軍還之日軍監以下録事以上各赴本司勾勘訖然  
後放還

凱旋の日大將軍への郊勞乃御使あるに前子  
この御使の内舎に於てかち大將軍の家子還り  
軍監軍曹録事を以て出陣の時請取たる鼓鉦  
弩矛稍具装大前小前軍幡乃類兵庫司造兵兵  
馬司より受取り時の文抄を合せ返納を以  
て義解に謂軍監以下各赴兵庫兵馬等司以初  
受抄對勘返納也と云り受抄に受取り時の記

なり今云送<sub>レ</sub>状と志るべし受物と書<sub>カキ</sub>一本も  
あり勾との帳を消<sub>ケ</sub>去と形<sub>レ</sub>又勘との引合を  
おとあ<sub>レ</sub>此事終<sub>レ</sub>後兵士を面々の家<sub>ニ</sub>放  
還せしむるなり

凡<sub>ニ</sub>申<sub>サ</sub>勲簿<sub>ヲ</sub>皆具<sub>ス</sub>録陣別勲状

此より以下凡<sub>ニ</sub>四條<sub>ヲ</sub>將軍以下兵士以上征戦  
の勲功を申<sub>ス</sub>を定め形<sub>レ</sub>りたとへハ勲簿といひ  
て軍陣<sub>ニ</sub>入<sub>ル</sub>の行状征戦の日乃進退獲首の多  
少を注<sub>シ</sub>せし状を大政官へ申<sub>ス</sub>を入<sub>ル</sub>ハ某處の陣

陣<sub>ニ</sub>入<sub>ル</sub>ハ云々某處<sub>ニ</sub>戦<sub>ス</sub>入<sub>ル</sub>云々といふ明  
了<sub>ニ</sub>記<sub>ス</sub>をべしとなり義解<sub>ニ</sub>謂<sub>フ</sub>下文官軍以下  
戦處以上皆具<sub>ス</sub>録申<sub>ス</sub>是<sub>レ</sub>為<sub>ス</sub>勲状也といへ<sub>ル</sub>  
勲人官位姓名左右廂相捉姓名人別所執器仗當  
團主帥本屬

是より日月戦處より勲状の書式なり首<sub>シメ</sub>  
勲功を申<sub>ス</sub>人の官位姓名を記<sub>ス</sub>をへし無官位<sub>ハ</sub>  
姓名<sub>ヲ</sub>か<sub>レ</sub>り<sub>テ</sub>左右廂<sub>ハ</sub>義解<sub>ニ</sub>謂<sub>フ</sub>左右廂猶  
左右方也捉持也猶率領也假令注<sub>シ</sub>云兵士姓名

斬首若干級所執弓箭左廂軍監姓名之所率領  
 其國其團隊正姓名之部伍其郡人之類文以器  
 仗列當團上者是舉其大體不可為定例と云  
 左廂といひ右廂といふを左方右方といふ  
 如くといふ子依の戰場も兵士は左右に列  
 ね軍監一人これを率領して進退周旋を依と  
 とすこの古事記も爾日子國夫玖命乞云其廂  
 人先忌矢可彈といひよる伏隱河邊之兵彼廂  
 此廂一時共興とあるを全く此も所謂左右廂

の義もく書かば此の其廂人なるソノテヒト彼  
 廂此廂ハカノテコノテと訓へ古事記傳も  
 ソナタを讀みの義解も左右廂猶左右方と云  
 るも依かばどもあく子云廂ハ遁甲式も五  
 十人為一隊十隊為一廂左右廂而二十隊千人  
 也といふを用ひなむの徒も方といふと同  
 一から以遁甲式の百濟の僧觀勒の將來せし  
 処もく天淳中原瀛真人天皇の能くもみ処  
 かば此等の陣法も恐らくも天皇の叡思も

出からん諸葛亮八陣圖於魚復平沙之上疊  
 石為八行晉桓温見之曰常山蛇勢此即九軍陣  
 法也といひいひを我朝ワカクニもく大鷦鷯オホサキ天皇の御宇  
 あり天皇六十一年至隋韓擒虎深明其法以授  
 其甥李靖靖以時遭久亂將帥通曉者頗多故造  
 六花以變九軍之法使世人不能曉之是兵家の  
て奇正變化の妙處といふへ今の兵家の只  
陳腐糟粕を講を依の之李靖の笑を免はく  
能く大依八陣即九軍九軍者方陣也六花陣即  
 七軍七軍者圓陣也上も出以方圓陣蓋陣以圓

為體方陣者内圓而外方圓陣者内外俱圓矣故  
 以方圓物驗之則方以八包一方と中軍を  
 圓以六包一方と中軍と此九軍六花陣之大  
 體也六軍者左右虞侯軍各一為二虞侯軍左右  
 廂各二為四廂軍與中軍共為七軍八陣云ハ  
 左右廂を以陣子名付る出と西土ハ所見  
 あり宋熙寧七年新安結隊法子百人為都五都  
為營五營為軍十軍為廂四廂為都指揮と  
云も皇朝の遁甲式の五百人太白陰經子黄帝  
 為廂といふよハ後なり  
 設八陣之形車廂洞當金也車中黄土也云々と



云廂ハ車廂イッの末と云ふと巾陣の名子廂字を  
 用ゆる是子依ヨレるふ也如斯カ、レハ廂字を太朝臣  
 安麻侶の太朝臣多朝臣トと同トといふを誤かす古  
 事記軍陣の條子用ひし其深意あるを然せし  
 なり軽く見へざるあらば又禊ヒ田阿禮タ、ア、レの口子  
 傳へしふあらむ全く軍防令子據ヨリしあはれし  
 遁甲式子千人を左右廂と云ふといひ左廂軍  
 監右廂軍監といふ成以て考ふは此ハ戦子臨む  
 時二十隊の兵士を左右と引分ヒキワケて十隊入軍監

一人ツギ付副ソレて監察一萬の兵士輪轉カ子懸  
 又戦ふ十一戦し始シ子還カハると云らる 七十  
 戦し一子還又九千 八十戦して一子還る 故に勲状子

本屬  
 某國某郡某團

當團主帥  
 其隊正姓名部伍

勲人官位姓名  
 兵士官位姓名  
 斬首若干級  
 弓某箭某甲某  
 曹某衣某

某年某月某日於其國其郡其里與叛人某

合戦官軍若干賊衆若干

右 左 廂軍監某姓名

右乃如く記<sup>レ</sup>ををいふ後よハ軍忠申<sup>レ</sup>文<sup>レ</sup>す<sup>レ</sup>也  
合戦目安といふ全くこの勲状の遺式といふ  
へく又弓箭甲曹衣裳まを記をもその戦子  
臨むもの多く混<sup>レ</sup>れざはう為<sup>タ</sup>なり文治中奥列  
合戦子伊達國衡の甲曹の色目および馬毛を  
注<sup>シ</sup>さくめく後畠山重忠と和田義盛の争ひを  
決せられくふと思ひ合をへく又合戦の記録

ふ・甲曹・弓箭・太刀・刀・馬毛・鞍・鎧・泥障・具装・母衣等  
をいふこと精密かるも大将の許<sup>モト</sup>も色目を細  
記せく書記あれハたり

官軍賊衆多少

前よ擧く勲状子注をふ成いふ義解子謂唯顯  
彼此衆寡状非謂<sup>レ</sup>必擧<sup>レ</sup>其定數<sup>也</sup>といふハ官軍  
三軍入り一萬二千人おども戦場子臨<sup>シ</sup>く  
ハ某隊某隊合せく三隊とかすハ二團の衆  
ありとら其場よ出<sup>イデ</sup>會<sup>ヒ</sup>く兵士の大數の<sup>イ</sup>と云

なり賊衆も亦然るへ

彼此傷殺之數及獲賊軍資器械

彼ハ賊を斥詞此ハ官軍をいふ傷ハ今云手負

か又殺ハ戦死人あり勲状ハ官軍と賊と合戦

志賊若干を殺し若干を傷けと記さハ彼ふ又

官軍の戦死若干被傷若干と擧るハ此なり義

解ハ謂獲賊者生禽之虜也といへば賊を生捕

去をいふ又改心し降又しもあるへ軍資

者糧食牛馬之屬也といへハ軍用ニ充べき

のをべし軍資なり器械者弓箭介冑之屬並是

所掠取者也といへ又並といふハ軍資まで

わくは詞兵糧ハ官の儲る処介冑ハもとよ

官物あるを賊の掠取しを今取返しけりあり

器械といへハ軍幡矛稍大角小角鼓鐘楯等

ことたる詞なり

辨戦時日月戦處並畫陣別戦圖

是ハ勲簿子副て進る圖入り兵士勲状といハ自

別なり戦時日月戦處を辨以といハ某月某日於

其處合戰官軍若干賊衆凡若干官軍某斬賊若干云々賊軍云々其月其日圍賊于其處其處合戰云々と記以をふち義解子謂勲狀功帳之外別有戰圖也といふ功帳あり前子云將軍府の録事乃書記ハ軍行中の書記みしてこれハ官へ進達の書記子あらば是子所謂勲狀ハ各各の申狀功帳ハ將軍副將軍一軍指揮進退の功帳かよハ副將軍以上の姓名を注をふと云なり神倭磐余彦火々出見天皇甲寅年十月辛

酉速汲の水門子御船泊られよ<sup>ツカ</sup>以來戊午年三月丙子<sup>十日</sup>白肩の津<sup>シラカタ</sup>入着せられ四月甲辰<sup>九日</sup>孔舎<sup>サカ</sup>銜坂の戦以下子細<sup>コウカ</sup>子記さよ一<sup>ツカ</sup>成以て考ふれハ既みこの功帳の法を立られ一<sup>ツカ</sup>かるべ<sup>ツカ</sup>火々出見尊の造られ一<sup>ツカ</sup>文字をサチビトノフミ<sup>ツカ</sup>さいふ<sup>ツカ</sup>依まひ<sup>ツカ</sup>ら<sup>ツカ</sup>か<sup>ツカ</sup>子<sup>ツカ</sup>勤書あ<sup>ツカ</sup>よ<sup>ツカ</sup>ハ<sup>ツカ</sup>あ<sup>ツカ</sup>い<sup>ツカ</sup>子<sup>ツカ</sup>ハ<sup>ツカ</sup>以<sup>ツカ</sup>て<sup>ツカ</sup>考<sup>ツカ</sup>ふ<sup>ツカ</sup>仍於圖上具注副將軍以上姓名附簿申送大政官勲賞高下臨時聽勅<sup>ツカ</sup>孔舎銜の戦子克<sup>ツカ</sup>せられ<sup>ツカ</sup>は<sup>ツカ</sup>ど<sup>ツカ</sup>於<sup>ツカ</sup>是<sup>ツカ</sup>日<sup>ツカ</sup>子<sup>ツカ</sup>む<sup>ツカ</sup>か<sup>ツカ</sup>ひ<sup>ツカ</sup>く

虜を征む天の道子逆へ日神の威伐負て向  
 たりんところ草香津よ茅渟山城水門を經る  
 紀伊國熊野丹敷浦入いたるぎれよ菟田の  
 下縣穿邑子入せらるか孫る地圖伐くらせ  
 玉を以て争て日の向背をあらせむひて如是  
 皇師をせしめらばを  
 哉國之獲と詔のら  
 七月の又御間城入彦五  
 林の西南みあまの  
 らびの推足彦天皇の五年山河を隔て國縣を分

ち阡陌の隨み邑里を定められし時ハたヤ  
 小國圖を作らむと日乃横山の陽伐  
 かけと山陰をそと名付かくてのち  
 大鷦鷯天皇四十一年三月紀前宿祢を百濟子  
 遣さむ始分國郡疆場具録郷土所出といふ  
 中百濟を進退あるべき為み圖録伐作られし  
 たり世ハ白髮天皇の四年を書史のそしめ  
 たりといへど中ハ九百三十年前のこと  
 大泊瀨幼武天皇の七年西漢才伎  
 歡因知利吉備上道臣弟君等道を百濟に取て  
 新羅に使せしむこの圖録よ又く道の便を

得<sub>レ</sub>てと去<sub>ラ</sub>る天<sub>アマ</sub>淳<sub>マ</sub>中<sub>ナ</sub>原<sub>ハラ</sub>瀛<sub>オキ</sub>真人<sub>マヒト</sub>天皇十年八月丙戌遣<sub>ツカ</sub>多<sub>タ</sub>祢<sub>ネ</sub>島<sub>シマ</sub>使人等貢<sub>ス</sub>多<sub>タ</sub>祢<sub>ネ</sub>國<sub>クニ</sub>圖<sub>ツ</sub>其國去<sub>レ</sub>京五千餘里といふよ<sub>ク</sub>續日本紀子天之真宗豐祖父<sub>オホヂ</sub>天皇二年四月壬寅文忌寸博士<sub>ハカセ</sub>等八人を南嶋子遣<sub>ツカ</sub>て國圖を覓<sub>モト</sub>めよ<sub>ク</sub>戎器を賜ふといひ三年七月辛未多<sub>タ</sub>祢<sub>ネ</sub>夜<sub>ヤ</sub>久<sub>ク</sub>菴<sub>アマ</sub>美<sub>ミ</sub>度<sub>タカラ</sub>感<sub>カ</sub>等人從朝宰而來貢<sub>ス</sub>方物とあ<sub>リ</sub>て八月己丑奉南嶋獻物于伊勢大神宮及諸社とあ<sub>リ</sub>て南嶋とさ<sub>キ</sub>を多<sub>タ</sub>祢<sub>ネ</sub>夜<sub>ヤ</sub>久<sub>ク</sub>菴<sub>アマ</sub>美<sub>ミ</sub>度<sub>タカラ</sub>感<sub>カ</sub>の四嶋と去<sub>ラ</sub>る

天平勝寶六年二月の條子南島樹牌而其牌經年今既朽壞宜<sub>レ</sub>依舊修<sub>シ</sub>樹<sub>ツ</sub>每牌顯著<sub>シ</sub>島名并泊<sub>ハシ</sub>船處有水處及去<sub>レ</sub>就<sub>ス</sub>國行程遙見島名令漂<sub>レ</sub>著<sub>ル</sub>之船知<sub>ル</sub>所<sub>ニ</sub>向<sub>ス</sub>とあ<sub>リ</sub>て蓋<sub>カサ</sub>服<sub>ヒ</sub>を<sub>シ</sub>ハ其方域を治むるため<sub>ニ</sub>後<sub>シ</sub>けハ兵伐<sub>ス</sub>その堺<sub>サカイ</sub>を<sub>シ</sub>用<sub>ヒ</sub>る為<sub>ニ</sub>豫<sub>アラカ</sub>め造<sub>ラ</sub>れ<sub>ル</sub>こと<sub>ヲ</sub>を<sub>シ</sub>こ<sub>ト</sub>此法後々<sub>ニ</sub>まで遺<sub>ノコ</sub>り治承四年八月十七日右武衛山木判官兼隆<sub>タカ</sub>を討<sub>ツ</sub>れん<sub>ル</sub>為<sub>ニ</sub>子期<sub>サキ</sub>子先<sub>サキ</sub>たち四日大和判官代<sub>ニ</sub>邦道<sub>ツカ</sub>を山木兼隆<sub>タカ</sub>の家<sub>ニ</sub>遣<sub>ツカ</sub>て山川村里<sub>ツク</sub>悉<sub>シ</sub>

く圖繪せしめらばよし東鑑よもあかく  
 甲斐の武田の家入り出陣し先たち其國其郡  
 みつゝは山川道路切處廣狹水草の便不便神  
 社寺院の方位おとく是を記さしめて次は  
 間者伐入り地理伐探り究め去り後人數  
 割を定むると形とさけり蓋令の遺制と去  
 り教義解し謂戰圖之端首といふは戰圖の端  
 首へ某年某月日於其國其郡其地官軍討賊某  
 戰圖大將軍官位姓名將軍官位姓名副將軍官

位姓名と注をいふ孫子九地といふは散  
 地・輕地・爭地・交地・衢地・重地・圯地・圍地・死地  
 是の地理を知り後からる散り輕り爭り  
 交り辨むへからば又地の六形といふは通・掛  
 支・隘・險・遠・かす是もすの地理は通曉して  
 後子通たる伐去り掛たるを覺るべし然らば  
 孫子地圖ありと云へし吳子  
 も亦云料敵八事の五は水地不利をいひ八は  
 行阪・涉・險といふ是もす先地圖を考へし然

後み利不利を説べし我邦の兵制孫吳に依り  
あらば自然に昭合をばらなり

凡行軍叙勲定簿每隊以先鋒者為第一

義解の謂行軍之所録事以上也といふ十字定  
簿の下に注をべし兵士の勲状を取て將軍府  
録事乃書記に對勘し軍曹軍監と其勲の次第  
を定むるにたとへて考課令に當司長官考其  
屬官應考者皆具録一年功過行能並集對讀議  
其優劣定九等第といふ如く兵士以上大毅以

下征行中の勲を考へ並集對讀し第一第二の  
等第を定むるとちり兵士一萬人に二百隊五  
千人に百隊三千人に六十隊なり故に每隊と  
いふ謂文云每隊即知有百隊者亦有百先鋒  
者兵端也といふ兵端とを敵に一番に對をば  
といふ即日本紀に魁師の字茂比登誤廼伽淤  
と訓す

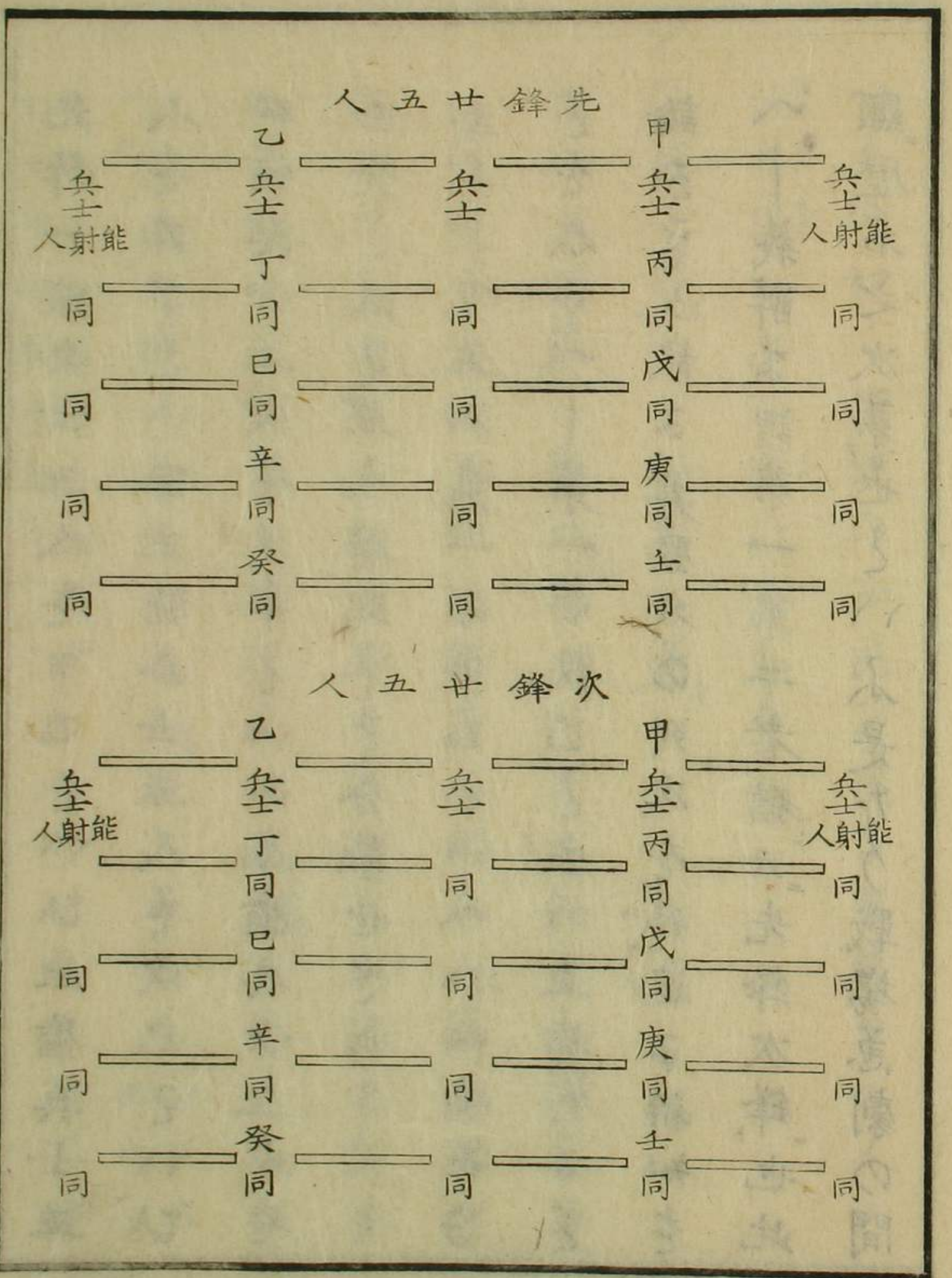
其次為第二

義解に謂假令陣列之法一隊十楯五楯列前五



槍列後槍別配兵五人即以前列二十五人為先鋒後列二十五人為次鋒之類也凡未戰前豫定先次鋒故申勲簿之日亦據之為次也といへばこれ五十人の兵士乃順次を知へき為子如是おせたり一槍といふハ槍四枚なり又槍四枚をゆらぬむハ槍端二處槍中三處あり兵士五人を立しむべし槍端ハ一隊兵士の中より能射人の居あり

一隊先次鋒兵一槍五處の圖



先鋒一楯兵士五人を甲乙といひ二楯兵士五人を丙丁といひ三楯兵士五人を戊己といひ四楯兵士五人を庚辛といひ五楯兵士五人を壬癸といひ是五人聯比し之を分離せざらむる為にして且ハ第一の甲乙といへハ一楯を以て之を志るべし第一の戊己と云ハ三楯たるを論かざる故に其歴名の列次を神速に辨知しへし義解に謂第一第二者猶云先鋒次鋒也此顯歴名之次第也といふ是なり戰場急劇の間

かくの如く簡便の法あり後ハ軍勢甲乙人と云名目ハ去の遺れるなり  
不得第一等勲多於第二等

諸本ハ謂第一第二者云々とあれども錯亂ありハ假令大將下令曰斬首五級己上為上勲四級己下為次勲若有先鋒甲乙斬首五級丙丁四級次鋒戊己斬首五級庚辛四級者則是戊己雖不得為先鋒而其勲功過多於次鋒之人  
諸本次  
とあり恐らくハ次鋒甲乙之人と有るべし即以甲乙戊己丙丁庚

辛<sup>ヲ</sup>為<sup>ス</sup>歴名次第<sup>ヲ</sup>之類也といふハ五級以上を以て  
 上勲とふをといへハ六級も七級も上勲と  
 四級以下を以て次勲とふをと云ハ三級二  
 級も次勲なり此戦も二百隊一萬人の中獲首  
 七級ハ上勲にして先鋒第一の兵士あり然る  
 も次鋒の内も六級の兵士あり次勲四級より  
 多けむとも第一七級もハ及むべかくの如  
 きを得<sup>レ</sup>第一等<sup>ニ</sup>多<sup>ク</sup>於<sup>テ</sup>第二等<sup>ト</sup>といふ歴名の次  
 第もくハ

先鋒

一某 <sup>七級</sup>	一某	一某	一某	一某	一某	一某
三某	三某	三某	三某	三某	三某	三某
甲 五某	丙 五某	戊 五某	庚 五某	壬 五某		
乙 四某	丁 四某	己 四某	辛 四某	癸 四某		
二某	二某 <sup>二級</sup>	二某	二某	二某	二某	二某

次鋒

一某 <sup>四級</sup>	一某	一某	一某	一某	一某	一某
三某	三某	三某	三某	三某	三某	三某
甲 五某	丙 五某	戊 五某	庚 五某	壬 五某		
乙 四某	丁 四某	己 四某	辛 四某	癸 四某		
二某	二某 <sup>六級</sup>	二某	二某	二某	二某	二某

勲状の

五級以上上勲四級以下次勲

隊正某部伍

第一上勲<sup>七級</sup>先鋒甲乙一某姓名

上勲<sup>六級</sup>次鋒丙丁二某姓名

第二次勲<sup>四級</sup>次鋒甲乙一某姓名

第一七級よりの少くは因り第一等を得以第二四級よりの多し故に第二等よりの多しといふ

この令文の意を義解するに

先鋒

一	三	甲	五	級
二	四	乙	五	級
一	三	丙	四	級
二	四	丁	四	級
一	三	戊	五	級
二	四	己	五	級
一	三	庚	四	級
二	四	辛	四	級
一	三	壬	五	級
二	四	癸	五	級

次鋒

一	三	甲	五	級
二	四	乙	五	級
一	三	丙	四	級
二	四	丁	四	級
一	三	戊	五	級
二	四	己	五	級
一	三	庚	四	級
二	四	辛	四	級
一	三	壬	五	級
二	四	癸	五	級

かくの如き時ハ左のおとく注シレをべくとなり

先鋒甲乙五級

先鋒の甲乙戊第一丙丁

次鋒戊己五級

を第二とく解せしあ

先鋒丙丁四級

又先鋒第一甲乙ふハ及

次鋒庚辛四級

と叙とも第二の丙丁よ  
又多しと云なり

令ハ先鋒を第一次鋒戊第二といふ志かふよ  
第一等を得以第二等よ又多しと云ハ先鋒次  
鋒の一二よあら以上勲次勲の一二ふるよハ  
上勲五級以上といふふく聞キコえくた又きでよ

以上といへハ六級七級八級九級もあるべし

因く上勲第一第二といもざれハ順序たぐは

次勲四級以下といへハ三級二級一級まで有アル

べし因く次勲第一第二といふべきなり勲等ヒシキ

之日即依先次鋒以為次第功有輕重即量其勲

級以為進退故制此文也といふハ聞キコえくた是

後世頸帳クビの因く起る処なり

即勲色雖同ト而優劣少異者皆以次歷名セヨ

勲ハ首數クビあり色ハ先鋒次鋒の甲乙丙丁なり

同一之ハ先鋒次鋒共ニ上勲ニシテ斬首五級カ  
 法ナリカク乃如キハ先鋒甲乙上勲五級兵士  
 姓名次鋒甲乙上勲五級兵士姓名ト注シベケ  
 此トモ先鋒甲乙斬首五級ノ内三級ハ軍將ノ  
 首次鋒甲乙斬首五級ノ内一級ハ賊首ノ頭カ  
 多時賊首ノ首優ムシテ軍將ノ首カ劣ナリ如  
 是ハ次鋒甲乙五級賊首一級兵士姓名先鋒甲乙五  
 級軍將三級兵士姓名ト注シベシ義解ニ謂俱是先  
 鋒或共ニ次鋒而同勲之中各有輕重者假令有先

鋒之人中甲斬首五級乙三級丙四級者即以甲  
 丙乙ヲ為歴名次之類也といふハ優劣ト輕重を  
 一事をせしなり五級ト四級ハ多少ニシテ輕  
 重ナリ五級ト五級ハ同等ニシテ賊首ト軍將  
 ハ優劣ナリ後々カ采配を取ル首クビト齒黑首カネクロクビ又  
 カ曹頭カトノ優劣アズ義解ハ文官ノ手ナレニ成シハ  
 武事ニ於テ嫌アキたらぬ処あふ所以ナリ  
 若不合舍叙則從後減退  
 上ノ第一等ニハ及々祿トモ第二等よりハ多ニサ

る勲人<sup>アデ</sup>戎擧<sup>ツキ</sup>次<sup>ニ</sup>は兩人勲<sup>クビ</sup>お<sup>カ</sup>け<sup>レ</sup>ど<sup>モ</sup>擧<sup>ゲ</sup>の  
 獲<sup>エ</sup>たる首<sup>クビ</sup>は優劣ある勲人<sup>クビ</sup>戎擧<sup>ツキ</sup>たる例を合せ  
 考ふ<sup>カ</sup>ゆ<sup>ニ</sup>若<sup>シ</sup>不合といふ<sup>ハ</sup>先鋒<sup>クビ</sup>は斬首<sup>クビ</sup>三級<sup>ニ</sup>は  
 去<sup>ク</sup>一級<sup>ニ</sup>は軍將<sup>クビ</sup>乃<sup>チ</sup>首<sup>クビ</sup>是<sup>レ</sup>は副<sup>ク</sup>て軍糧<sup>クビ</sup>百石<sup>ニ</sup>を得  
 せ<sup>ル</sup>勲人<sup>クビ</sup>あ<sup>リ</sup>又<sup>ニ</sup>同<sup>ク</sup>く次鋒<sup>クビ</sup>は斬首<sup>クビ</sup>三級<sup>ニ</sup>是  
 副<sup>ク</sup>る甲曹<sup>クビ</sup>十餘領<sup>ニ</sup>を得たる勲人<sup>クビ</sup>あ<sup>リ</sup>四級<sup>ニ</sup>以  
 下<sup>ニ</sup>を次勲<sup>クビ</sup>と定められ<sup>ル</sup>せ<sup>ル</sup>は三級<sup>ニ</sup>は次勲<sup>クビ</sup>たる  
 出<sup>ス</sup>と勿論<sup>ナ</sup>か<sup>レ</sup>ど<sup>モ</sup>軍將<sup>クビ</sup>の首<sup>クビ</sup>と軍糧<sup>クビ</sup>百石<sup>ニ</sup>の多  
 少<sup>ニ</sup>あ<sup>リ</sup>又<sup>ニ</sup>甲曹<sup>クビ</sup>十餘領<sup>ニ</sup>の多<sup>ク</sup>少<sup>ニ</sup>あ<sup>リ</sup>又<sup>ニ</sup>出<sup>ス</sup>を進<sup>メ</sup>め

て上勲<sup>クビ</sup>は入<sup>ル</sup>へ<sup>ル</sup>や<sup>ハ</sup>入<sup>ル</sup>合<sup>ル</sup>ら<sup>ズ</sup>は<sup>ヤ</sup>とい<sup>フ</sup>時<sup>ニ</sup>  
 軍將<sup>クビ</sup>の首<sup>クビ</sup>は卒伍<sup>クビ</sup>の首<sup>クビ</sup>は優<sup>ニ</sup>越<sup>ス</sup>ハ一級<sup>ニ</sup>戎<sup>クビ</sup>三級<sup>ニ</sup>は  
 去<sup>ク</sup>め百石<sup>ニ</sup>の軍糧<sup>クビ</sup>は卒伍<sup>クビ</sup>の首<sup>クビ</sup>二級<sup>ニ</sup>は比<sup>シ</sup>へ合  
 せ<sup>ル</sup>七級<sup>ニ</sup>は准<sup>ス</sup>上勲<sup>クビ</sup>は合<sup>ス</sup>へ<sup>ル</sup>甲曹<sup>クビ</sup>十餘領<sup>ニ</sup>は  
 軍糧<sup>クビ</sup>二百石<sup>ニ</sup>は比<sup>シ</sup>卒伍<sup>クビ</sup>の首<sup>クビ</sup>四級<sup>ニ</sup>は准<sup>ス</sup>三級<sup>ニ</sup>  
 と合せ<sup>ル</sup>あ<sup>リ</sup>七級<sup>ニ</sup>は准<sup>ス</sup>上勲<sup>クビ</sup>は合<sup>ス</sup>べ<sup>ク</sup>  
 け<sup>レ</sup>ハ五級<sup>ニ</sup>上勲<sup>クビ</sup>の上<sup>ニ</sup>は列<sup>ス</sup>を<sup>レ</sup>べ<sup>ク</sup>なり<sup>ト</sup>い<sup>フ</sup>時<sup>ニ</sup>  
 五級<sup>ニ</sup>上勲<sup>クビ</sup>ハ真<sup>ニ</sup>の頭<sup>クビ</sup>なる<sup>ニ</sup>今<sup>ノ</sup>七級<sup>ニ</sup>ハ真<sup>ニ</sup>の頭<sup>クビ</sup>  
 三級<sup>ニ</sup>か<sup>レ</sup>上勲<sup>クビ</sup>は入<sup>ル</sup>べ<sup>ク</sup>五級<sup>ニ</sup>の上<sup>ニ</sup>は置<sup>ク</sup>べ

からびと云く引下る時ハ次鋒の勲人をまづ  
 減退へといふなり義解子謂假令有甲乙丙  
 丁共是次鋒有勲云次鋒之勲不過三人者即後  
 最後之人而減省類也といふ戦子臨む日子當  
 て先鋒子勲人幾人次鋒子勲人幾人とかは  
 定むべけんや兵を志らざるの論あり従  
 ふへからび塙本子若不合全叙とあるハ更子  
 言子たらむ合不合ハ上勲次勲の定子合と不  
 合とを云舎叙とハ進退の叙取と捨をいふ

形又但此ハ兵士の事なり壬申の亂子村國  
 連男依和珥部臣君手身毛君廣大伴連吹負書  
 首根磨等ハ將軍たり續日本紀子大寶元年七  
 月壬辰壬申年功臣隨功第賜食封又勅先朝論  
 功行封時賜村國小依百二十戸當麻公國見縣  
 犬養連大伴朴井連小君書直知徳書首根磨黃  
 文造大伴大伴連馬來田大伴連御行阿倍普勢  
 臣御主人神麻加牟陀君兒首十一人各百戸云  
 云賞雖各異而同居中第宜依令四分之一傳子



きあは

允叙勲應加轉者

上條子勲功の次第を立る作法をのべ此條子勲位戎加轉をべき作法をいふなり加轉とハ本位十二等なる戎今の勲より又十一等子加え轉を依を云あり義解ハ謂轉是不定之意也假令元年行軍十級為一轉二年行軍五級為一轉之類依其無定例故云之為轉也といふも轉字の意を解を依ふる加轉の解子あらば

軍事ハ奇を以る主と以故子恩賞子至るも下より推計るやべき為子依るハ十級を以る轉せしめ後子の五級を以る先子の七級を以てし後子の四級を以て以是大將軍胸中乃秘ふ志る兵を行ふの法是を以る主と以と云べし

皆於勲位上加若無勲位一轉授十二等

兵士初ハ皆無勲位なり行軍子從ひ戦子臨て勇を顯るし首級を得る後をよめ勲位を得

べし故に無勲位より有勲位に入らば、めを十  
二等といふ。從八位下よりハ降、大初位上よ  
りハ昇むとある。へし内藏・縫殿・大炊・散位・少屬  
等の官ハ内有位か、と云勲十二等よりハ降  
等なり

每一轉加一等、六等以上ハ兩轉加一等

十二等の人又勲あるハ十一等より昇る正八位  
下の次なり。十一等より十等へ昇る從七位下  
乃次なり。十等より九等へ昇る正七位下の次

形より九等より八等へ昇る從六位下の次なり  
八等より七等へ昇る正六位下の次なり。大國  
乃介中國乃守と同等なり。まゝ一度勲ある  
六等へ昇る六等ハ勅授にして從五位下の次  
なり。五位ハ大夫と稱し通貴といふ。故に六等  
の五等へ昇るハ兩轉を以り。云勲功二度  
乃上からる進めを但勲功一度か、ハ等を  
昇るハ及む。云どハ賞を關ハ行軍の法に  
あらば、因り田二町を賜ふと云。此田を賜田

といふ下條義解子謂有勲六等而餘勲止有一  
 轉者此則勲少不及加授仍須賜田兩町即此名  
 為賜田といふ是形り賜田ハ口分田と同く  
 租を輸ここは後世土著乃兵士の富饒みく  
 有力ある張本といふべし六等二轉く五等  
 入昇る正五位下子准以兵衛督および大國の  
 守よ上等形り後世子至く秩父軍團の大  
 毅勲四等小野隆恭横山黨の武藏推守と稱し  
祖あり  
 從四位下たと云根本と知しへし五等又兩轉

去く四等入昇る從四位下子准し衛門衛士督  
 より上等と云へし賜田も亦も四町あり四等乃  
 三等子昇る又兩轉を経て賜田二町を加ふべ  
 し三等の二等子昇る又兩轉を経て賜田二町  
 あり二等ハ從三位子准し八省の卿よ上等  
 入し中納言乃次あり賜田八町あり此稻四  
 千束あふべし租百七十六束を輸し餘三千八  
 百二十四束あり此粟二百四十一石二斗あり  
 今四斗入六百零三俵あり勲二等子まくこし

兵士の子孫ハ口分<sup>コウブン</sup>の外ハ六百零三俵<sup>ロクパクジヤウ</sup>の得分<sup>トクブン</sup>あふの之<sup>ノ</sup>形<sup>カタ</sup>らば二等<sup>ニトウ</sup>の蔭<sup>カゲ</sup>を以<sup>もつて</sup>嫡子<sup>トクシ</sup>ハ從六位上<sup>ジュウロクイ上</sup>庶子<sup>シヤクシ</sup>ハ從六位下<sup>ジュウロクイ下</sup>として課役<sup>コウラク</sup>を免除<sup>メルク</sup>せら  
おぐたり

免課役	無勲位	十二等	十一等	十等	九等	八等
從六位上	從八位下	正六位下	從七位下	正七位下	從六位下	從六位下

免		課		役		
七等	六等	五等	四等	三等	二等	一等
正六位下	從五位下	賜田二町 正五位下	賜田二町 從四位下	賜田二町 正四位下	賜田二町 從三位	正三位
嫡子大初位上 庶子大初位下	嫡子從八位下 免課役	庶子大初位上	嫡子從七位下 庶子正八位上	嫡子從七位上 庶子從七位下	嫡子從六位上 庶子從六位下	同

二等以上三轉加一等

二等の一等より昇るハ三轉を経ると云ハ二等  
 の人勲一轉あるハ賜田二町或加へよ一轉  
 あるハ二町を加へよ一轉して一等より進む  
 其一等ハ正三位より准以三位を顯貴あり勲一  
 等ハ賜田十二町あるハ租二百六十四束を輸  
 一餘五千七百三十六束あるハ此粟二百八十六  
 石八斗あるハ今斗四斗入七百十七俵なり  
 其五位以上加盡勲位外仍有餘勲者聽授父子

内位五位以上の人或いふたとハ本位正五  
 位より勲位一等たる人より勲功ある時ハ  
 更に勲位の加ふべきか一是を加盡外餘勲あ  
 るといふ因るその勲を父子授くべしと形り  
 是を父乃勲を父子授くるといふなり義解は  
 謂若父子共在者理合授父其有兩轉者須分授  
 父子といへる但是もよ能解し得たりとせ  
 る五位以上より軍より從ひ勲一等を得て後  
 餘勲ある時といへる其人の年齢を以て四旬

及ふへい父ありとも六旬戎踰ひべい勲位  
十二等を受けて年少の下より立べけんや故より勲  
一等たる父乃餘勲を子より授く所と云ふ

如父子身亡每一轉賜田兩町

勲六等以上の父も子も共に軍より従ひ戦死せ  
去時ハその勲功の輕重を量り一轉おとし田  
二町戎其後たるもの子賜へといふ所の義解  
より謂如父子先有勲六等而餘勲止有一轉者此  
則勲少不及加授仍須賜田兩町即此名為賜田

不為功田也といへるハ令の意と同しからん  
令ハ本位五位以上より一轉たる人父子共  
より戦死せし時のとあるより義解ハ父子共より勲  
六等より一轉あつてハ五等より進むべけ  
れともし一轉あるハ故より五等より進むべ  
からん因り兩町の田を賜ふといふをよみ自  
別事なり

其六位以下及勲位加至一等外有餘勲者聽回授  
本位六位以下の人軍より従ひ勲一等より至り

後餘勲ある人ハ回授と云く父の勲を子に授くるは聴きといふなり義解ニ謂回授父子也といへば按子田令ハ除名者亦追當家之内有官位及少口分應受者並聽回給といふ回と同しけしハ父子と限りしとあり有へからん不在賜田之例

本位五位以上ハ勲一等外餘勲ある人ハ賜田あり本位六位以下ハ勲一等外餘勲あるハ回授を聴き本位なく勲位をかりし

志て一等外餘勲ある人も亦回授あるべし令子文なく推し知へけしなり

一轉	賜田二町	本位五位勲六等 <small>同四位</small>	同	本位六位勲六等	同	本位無位勲位六等
二轉	賜田二町	同	同	同	同	同
一轉	賜田二町	同	同	同	同	同
二轉	賜田二町	同	同	同	同	同
一轉	賜田二町	同	同	同	同	同
二轉	賜田二町	同	同	同	同	同
一轉	賜田二町	同	同	同	同	同
二轉	賜田二町	同	同	同	同	同
三轉	賜田二町	同	同	同	同	同
餘勲	授父子	同	同	同	同	同

凡勲人得勲後身亡者其勲依例加授

勲功は因り加轉をへき由を申奏し後其身死亡せし時ハ其の後を承る人ハ加授をべしとたり義解は謂例者一轉授十二等之類也と云る也後を承る人無勲位あらハ今死亡人の勲を加て第十二等とし若し其人をて七等の勲位を帶したらハ今一等を加て六等とふまべしとあり依此條按除勲人之外諸選人位記未授身亡者不可追叙といふハ軍功人の

其身死亡をれハ其後及へとも軍功の外其の身ハかき及り其後及らばとあり治承四年八月衣笠の軍乃時三浦大介義明の親祖父の屍處といひり知行せんふも三浦去そ知たけと云しも父ハ軍功の賞乃子孫及ふを云るなり是併今の遺制と志るへし續日本紀子天之真宗豊祖父天皇三年五月辛酉詔小坂上忌寸老壬申年軍役不顧一生赴社稷之意出於萬死冒國家之難而未加顯秩奄爾隕殞思



罷往魂用慰冥路宜贈直廣壹後の正兼復賜物  
といふ四年正月癸卯直廣壹縣犬養宿禰大侶  
卒詔贈正廣參正三位の上なり以壬申年功也といふ  
共ニ參考をべし  
若戸絶無人承貫者停

戰場ニ死亡し其後たる人なきハ停よとか  
又義解子謂不問親疎絶而無人とあれハ其の  
後を承る人あらばとも其傍親あらば絶無人  
といふべからば又其雖非當戸別戸有應蔭者

即亦合授といへハ其人の家ハ人かくとも  
其別家支流ハ人あらハ其人ハ授くべしとか  
又是軍功を重んぜらば至と云べし

凡勲位犯除名限滿應叙者  
勲位乃人犯罪あり除名せられ三載の後出  
仕を聴さば時を限滿應叙といふなり文官  
ハ六載なりとも軍士ハ其の半限とかさば  
さすこと

一等於九等叙二等於十等叙三等於十一等叙四

等以下於十二等叙

勲一等の人除名の後出仕を聴さば應叙の日  
八等を降して九等子叙を九等の課役とし子  
免ユルざるはなり二等ハ十等すハ八等を降クダを  
三等ハ十一等四等ハ十二等ハ子八等を降  
をホまるハ五等ハ亦十二等子叙七等降ハ又  
六等ハ十二等子叙六等の差タカヒかれども其外子  
叙をべき勲位ハけしハ然ハをハとハなり義解子  
謂假令勲十二等犯罪免官准法三載以後應降

軍先位二等叙而所降既盡故猶叙十二等是為從  
高叙也といへり

其官當及免官免所居官計降卑於此法者聽從高  
叙

勲一等ハ大毅たる人犯罪ある時子勲位  
と大毅の官を以て徒罪一年子當て除名をハ  
を官當といふ又勲位一等の人郡大少領子任  
しハるハ犯罪あり大領を免さばを免官  
と云ハ大毅ハして郡大領を兼任せし人大

領の職掌ふ就く犯罪あふ成以く大領を奪く  
れ大毅みち關係せさほを以く其ほく子務る  
を免所居官といふ是等乃類も降をたかふ  
大毅少毅校尉主帳旅師隊正と六等かゝる八等  
を降さんととほ子其職かゝ故子從高て五等  
降して隊正ととべくと云類なり義解子官當  
免官免所居官の解かゝ

軍防令講義卷之五終

對畫坊編卷之五終

